

# 阿嘉島の蝶

上林 利寛

AMSL 調理担当

Butterflies in Akajima Island

平成5年、年明けの阿嘉島では20度を越える暖かな日が2週間ばかり続き、この陽気に誘われツマベニチョウ、オオゴマダラ、モンキアゲハ、リュウキュウミスジ、イシガケチョウなど多くの蝶が活発に飛びまわり、山道のケラマツツジも早くも花を開き始めました。これらの蝶たちは阿嘉島でほぼ一年中観察できます。沖縄は温暖なため四季を通して何らかの花が咲いているし、寒さで草木が丸裸になることもありません。このことが蝶が連続的に発生するための条件なのでしょう。

阿嘉島でよく目にする蝶の一つにマダラチョウ科のリュウキュウアサギマダラがいます。飛び方は緩やかで、静止しているものは素手でも捕まえられます。島の北東に位置するニシハマのトキワギョリュウ(別名モクマオウ)の林は彼らの住処になっており、幼虫の食草のツルモウリンカ(ガガイモ科のつる性草本)が自生しています。ここでは1月であっても卵、幼虫、さなぎ、成虫と全ての世代を見つけることができます。私が観察したところでは、4月から5月にかけて一年を通して成虫が最も多く見られる時期です。林の中に敷きつめられたハマカブラ(アブラナ科の菜の花に似た花)の蜜を求め、群れをなして緩やかに飛び交う姿は幻想的で、その中にひたっているととてもいい気持ちです。

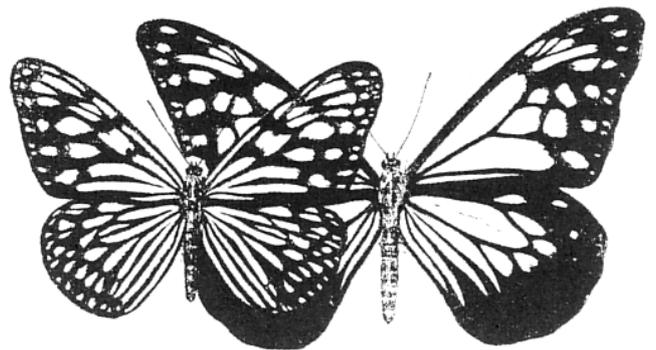
沖縄では台湾などの南方からの迷蝶も多く、例年ならば西表島で稀にみられる程度というツمامラサキマダラが昨年は沖縄本島各地で発見されたということです。私も阿嘉島でそれらしき蝶に遭遇したの

T. Kamibayashi

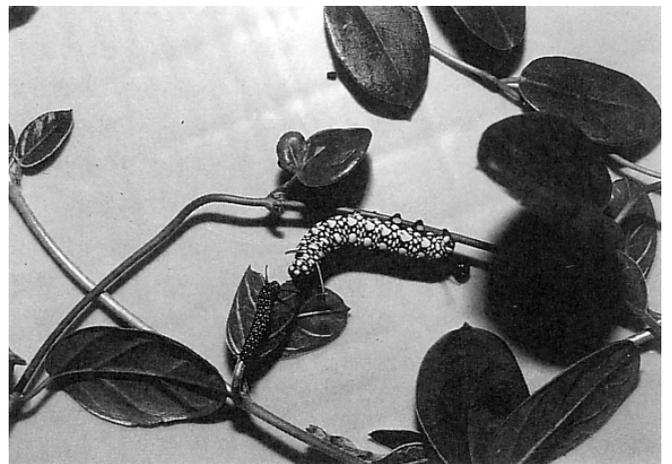


ですが、緊張して補注網がうまく振れず取り逃がしてしまいました。

阿嘉島ではこの他にも内地では見ることのできない、めずらしい形態や生態の昆虫が数多くみられ、それらに身近に触れることができるので、つい童心に返ってしまうことがしばしばです。



リュウキュウアサギマダラ(左)とアサギマダラ(右):アサギマダラは北海道から南西諸島にまで分布するが、リュウキュウアサギマダラは奄美諸島以南に分布する。阿嘉島では幼虫は両種ともツルモウリンカで見つけられるが、アサギマダラは幼虫、成虫とも少ない。



ツルモウリンカの葉を食べる琉球アサギマダラの若齢幼虫(下)とアサギマダラの終齢幼虫(上)